

# ア カン サ ス ポータル通信 第23号

## デジタルネイティブ

個人的な経験から話を始めたい。筆者は昨年まで高校の講師として国語を教えていたのであるが、最近教え子から一通のメールを受け取った。「大学に出すレポートがあるんですが、文章のおかしいところがないかちょっと見て下さい」と言う。さて、その文章が携帯のメールで送られてきた。そこで筆者は驚いてしまったのである。てっきりパソコンで書いた文章を、携帯に送ってきたのだと思ったのだが、本人に聞くと、その文章は、「携帯」で書いたのだという。大学に提出するレポートをである。レポートは普通、パソコンで作成するのではないのですか？と筆者が聞くと、本人は「そういうものなんですか？」とのたまったのである。ここには根本的な見解の相違がある。

しかしながら、である。思い返せば大学時代、国文科に在籍していた私は「卒論は手書きで書くべし」と通達されて、「手書きで原稿用紙百枚は無理」と思った記憶がある。そしてそうした心性は、パソコンが普及した時代の学生に共通するものであり、「手書きなるべし」というルールは、一人の勇猛な先輩が通達を無視してパソコンでプリントした卒論を提出し、受理されたことにより破られたのであった。彼はなぜ手書きなのか？と指導教員に詰め寄ったところ、「文字は人を表すからである」という回答を得、「何を前近代的な」と思ったという。

さて、この話と、携帯でレポートを書く学生の話は次元が違うかもしれない。しかしながら、学生のメンタリティは現在そこまで変革されつつある。流行の言葉で言えば、「デジタルネイティブ」の台頭である。「デジタルネイティブ」とは生まれた時からパソコンやネットワークが「当たり前のもとして」存在する中で育った世代であり、そうした世代の感覚は、それ以前の世代の感覚とズレがあるという議論がなされているのだ。

現在の学生は常に情報機器に接続された身体を持っていると言える。携帯電話は必須のものとしてあるし（修学旅行で携帯持ち込み禁止になったときの彼らの不安は尋常なものではない）、知らないことがあれば彼らはまず「ググる」のである。しばしば問題になる Wikipedia 問題もここに端を発する。

彼らが本当に「デジタルネイティブ以外」と異なる精神構造を持っているかどうかは簡単に結論できない問題ではあるが、そこにメンタリティの違いがあることは確かである。嶽本野ばらの小説『ロリキタ』はその問題をよく描写している。この小説において主人公は、少女と親しくなるにつれ徐々に「携帯」的文体を獲得していくのである。逆に、「携帯」時代において「携帯での連絡を禁じ、手紙でやりとりする」ことをルールにすることによって、少女に「手紙」的内面が形成されることを描いた小説もある。

さて、「アカンサスポータル通信」という場には若干ふさわしくない気もするが、ここで筆者の経験をもとに、主に高校生におけるデジタルコミュニティの現状の一端を紹介したいと思う。

## 高校生的コミュニティの形（現代の大学生の原型としての）

もちろん、すべての高校生がこうしたコミュニティの中にいるとは言わない。あくまでも筆者が高校講師時代に知り得た情報における、高校生におけるデジタルコミュニティの素描であると受け取っていただきたい。彼ら彼女らは、学校の中の仲よしグループを単位として、グループのホームページを携帯を利用して作り、各個人毎に以下のようなページを持っていた。

- ①プロフ 一個人プロフィール
- ②ブログ 一個人ブログ
- ③リアル 一現在の状況を一言で知らせる場所
- ④アルバム 一プリクラをアップロードする場所

「学校裏サイト」というものが一時期メディアで話題になったが、現状の中高校生（及び大学生）のネットを利用した情報の網の目は、中心点を持たない網の目状に分散して存在している。

最近では、twitter（Web上でつぶやきを公開できるシステム）の登場により、ネットでのコミュニケーション形態はさらに変化しつつある。

さて、最初的话题に戻るが、では、私たちは「携帯で作成したレポートを許容すべきなのか」という問いにどう答えるべきだろうか？筆者はそれに対して明確な解答を持ち得ないが、変容する「書記」デバイス環境の中、「彼ら」がどういう情報環境にいるのか、その考察が求められていると思われる。

最後にアカンサスポータルの話題に戻るがポータルを管理している身としては「なぜ先生はポータルに授業資料をアップロードしないのですか」という学生の要求には、できるだけ応えてほしいと言いたいと思う。

【文責 竹本寛秋】



制作:FD・ICT教育推進室 (FD/SD・ICT教育支援部門)  
末本 哲雄 ・ 竹本 寛秋  
電話:内線 角間(81)-5804  
メール:e-support@el.kanazawa-u.ac.jp  
(ID・パスワードの発行依頼、操作方法もこちらまで)  
URL: <http://www.el.kanazawa-u.ac.jp>

